

介助犬

～service dogs～

②アドバンス編



「介助犬」

肢体不自由の方のそばにいて
「困った」「不便だ」
のお手伝いをする犬です。

こまったなあ・・・

「仕事中、職場の人に助けてもらいたいことが多い。もっと、自立した仕事がしたい！」

こまったなあ・・・

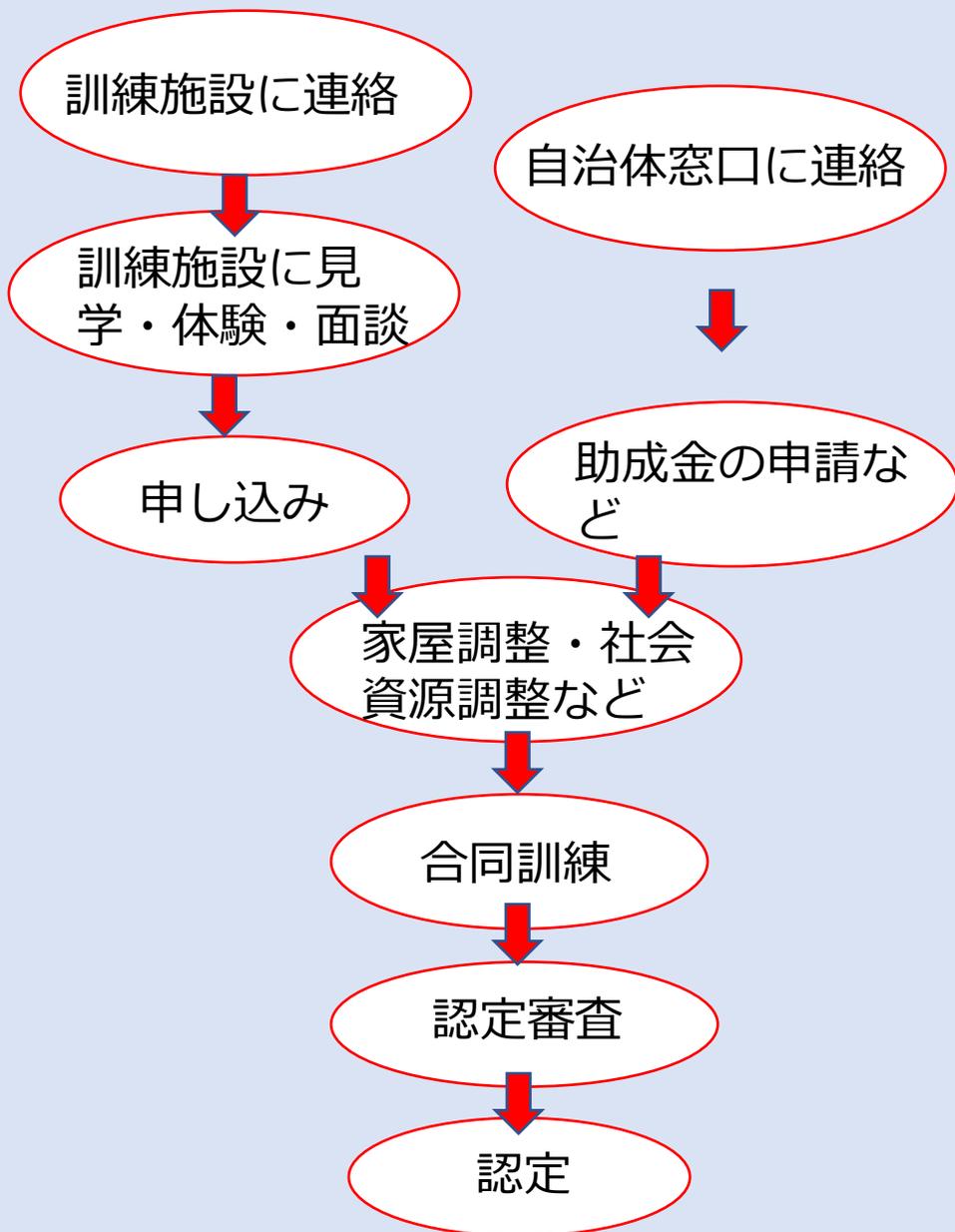
「仕事をしたいけど、家族が心配して一人で出られない・・・でも、出かけたい！」

こまったなあ・・・

「退院して社会に出ても、足手まといになるんじゃないか・・・と思うと怖い・・・でも、仕事がしたい！」

介助犬は、そんなあなたの前向きな思いを後押ししてくれます。

介助犬導入までの大まかな流れ



目次

1. 介助犬ってなに？	ページ
① 介助犬と法律	5
② 介助犬にできること	7
2. 介助犬ユーザーになる人は？	
① 介助犬ユーザーの適応	9
② 介助犬と一緒に目標を持とう！	10
3. 介助犬が欲しい！と思ったら？	
① まずはここに連絡を	11
② 見学会・体験会に行きませんか？	12
③ 訓練施設を選びましょう	13
④ 面接でじっくり話し合おう	14
⑤ 自治体（都道府県）へ連絡をしよう	15
⑥ 待っている間にできることは？	16
⑦ いよいよ合同訓練	17
⑧ 最終関門・認定審査	18
⑨ ここからがスタート！	19
4. ユーザーさんをご紹介します！	21
5. 介助犬として良かったことあれこれ	29
6. 介助犬と暮らしていて困ったことは？	31
7. 介助犬と職場復帰！「心得」教えて！	32
8. Q&A ～よくある質問～	33
パンフレットデジタル化に寄せて 木村佳友氏	35
ナースからみなさまへ	37

1. 介助犬とは？

① 介助犬と法律

介助犬は、肢体不自由の方の動作をお手伝いする犬です。「身体障害者補助犬法」※0という法律で、補装具としての位置づけで、**あらゆる施設へ同伴する権利**が認められています。

この法律で、ユーザーには介助犬が社会の一員として、迷惑をかけることのないように、**健康や行動を適切に管理する義務**が課せられています。



※0 厚生労働省 ほじょ犬ホームページ
→身体障害者補助犬法を知っていますか？

車いすの足元でリラックスして待機する介助犬 ～レストランにて～

受け入れ義務と努力義務

補助犬法では、補助犬を受け入れなければならない「**義務**」と受け入れる努力をしなければならない「**努力義務**」があります。

◇補助犬の受け入れが**義務**である

- ・国等※1が管理する施設、住宅（補助犬使用者が居住する場合）、職場（補助犬使用者が従業員である場合）
- ・公共交通事業者の旅客施設（車両・自動車・船舶・旅客等）
- ・不特定多数が利用する民間の施設等、従業員50人※2以上の民間の事業所（補助犬使用者が従業員である場合）

◇補助犬の受け入れが**努力義務**である

- ・民間の住宅（補助犬使用者が居住する場合）、従業員50人未満の民間の事業所（補助犬使用者が従業員である場合）、特定の会員制の施設等

※1 国等：国・地方公共団体・独立行政法人・特殊法人・政令で定める公共法人

※2 法定雇用障害者数が一人以上である事業所の最小の従業員数

② 介助犬にできること

介助犬が手伝ってくれる動作を「**介助動作**」といいます。いくつか例に挙げてみます。

「持ってきて」



物の名前を覚えると、探して持ってきます。転倒や緊急の時「テイク 携帯」で携帯電話を持ってきてくれます。

「開けて・閉めて」



介助犬が操作できるものなら、ドアや窓、カギの開閉ができます。急病の時「救急車が来るのに、カギを開けに行けない！」そんな心配もなくなります。

「呼んできて」



人を覚えたら、探して呼んできます。話し中の家族でも、確実に来てもらうことができます。

「拾って」



落としたものを取ろうとして、転びそうになることがあります。そんな時に、コインからカードまで、拾って渡してくれます。

「脱がせて」



靴やソックスを脱がせてくれます。服を脱ぐ手伝いもできます。きちんと洗濯カゴまで持って行くこともできます。

「待って」



用のないときは、足元に伏せて静かに待つことができます。車いすの入るところなら、ほとんど特別な待機場所はいりません。

他にも、「くわえる」「押す」「引っぱる」「運ぶ」等の組み合わせで、いろいろなことができます。でも、ユーザーや介助犬の体格や環境によっては、できないこともあります。

2. 介助犬ユーザーの適応は？

① 介助犬ユーザーの適応

介助犬ユーザーになるには、いくつかの条件があります。

- ・ 身体障害者手帳をお持ちの肢体不自由者（訓練施設・自治体により違う場合もあります）
- ・ 介助犬ユーザーになることで、**積極的な自立や社会参加**を目指し、生活をレベルアップさせたい方。
- ・ 脊髄損傷など脊髄疾患、脳出血など脳血管疾患、筋ジストロフィーなど神経内科疾患、リウマチなど整形外科疾患・・・など、病気や障害の程度がさまざまな方が対象です。
- ・ 他にも、身体的・精神的・経済的・社会的などのいろいろな方向から、適応があるか検討されます。介助犬と暮らすことでユーザーの健康にマイナスにならないか、責任を持ち常に愛情を注いで飼育することができるか、大型犬を飼育する経済力があるか、問題解決に周囲のアドバイスを受け入れられるような社会性があるか・・・など、普通の社会人なら持ち合わせているような管理・責任能力を持っていることが大切です。



夢は天高く！

② 介助犬と一緒に目標を持とう！

- ・ 介助犬を持つ目的は「自立と社会参加のため」と補助犬法ではっきりとされています。

「今も仕事をしているけれど、介助犬と一緒にもっと自立して仕事がしたい」

「仕事をしたいけど、障害が壁になって踏み出すことができない」

「仕事に出るのは難しいが、いろいろなコミュニティに参加して、障害者のことや、介助犬のことを広めるような、社会的な役割を果たしたい」

・・・など、今よりレベルアップした生活を送りたいという、前向きで具体的な目標が必要です。仕事や社会的役割を持つことは、自立に向けての大切なツールです。介助犬と一緒にってから運転免許を取った、という方もおられます。

3. 介助犬が欲しい！と思ったら？ ～希望からユーザーになるまで～

① まずは連絡してみましょう

・ 介助犬について知りたい、と思ったら、まず、**訓練施設※3 都道府県の窓口※4 吉備リハ介助犬普及推進室**へ気軽にお問い合わせください。

・ 介助犬の情報は、介助犬訓練施設、補助犬情報センター、厚生労働省のほじょ犬ホームページなどで見ることができます。「介助犬」で検索してみてください。イベントや講義の様子なども、たくさん記事になっています。

※3 厚生労働省 ほじょ犬ホームページ→ほじょ犬情報→第二種社会福祉事業届出状況→介助犬訓練事業関係

※4 厚生労働省 ほじょ犬ホームページ→ほじょ犬情報→都道府県身体障害者補助犬法担当窓口一覧



② 見学会や体験会に行きませんか？

・ 訓練施設の見学会や体験会などで、実際の訓練の様子や飼育環境を見られるのをおすすめします。施設の方の説明を聞いていると、モチベーションもアップします。

・ 全国各地で様々なイベントが開催されます。なかでも5月に愛知で開催される、日本介助犬協会主催「介助犬フェスタ」はとて大きなイベントで、毎年約6000人が訪れ、介助犬と触れ合ったり、情報交換をすることができます。

・ 見学会・体験会やイベントは各訓練施設が開催しています。訓練施設のホームページで確認できます。

・ 各地で行われる福祉機器展やショッピングモールのイベントなどでも開催されますので、こまめにチェックしてください。「近所ではませんか？」と訓練施設に問い合わせると確実です。



日本介助犬協会
総合訓練施設
シンシアの丘

③ 訓練施設を選びましょう

- ・ 介助犬は全国25か所ある、訓練施設（①※3）で訓練されます。**訓練施設選びは、介助犬と生活するうえで大きなポイント**となります。
- ・ 訓練士だけでなく、PT・OT・医療者・ソーシャルワーカー（以下チーム）などと連携して、日本全国どこにいても、きちんとしたフォローが受けられる訓練施設を選びましょう。「介助犬は渡されたけど、その後どうしていいかわからない」「訓練施設がなくなってしまった」などのトラブルがあっては困ります。
- ・ 介助犬事業は基本的に寄付や募金で成り立っていますので、しっかりとした基盤のある訓練施設が安心です。
- ・ 訓練施設のホームページなどを見て、問い合わせてみられるのがおすすめです。「介助犬実働実績」「広報活動への参加」「チームとの連携が取れているか?」「飼育環境は?」等の情報をきちんと提供してくれるかが大切です。

④ 面談で話し合いをします

- ・ 選んだ訓練施設で面談をします。身体的・精神的・経済的・社会的などの問題があれば、解決する手段を考えます。解決できる問題か?また、解決することで、介助犬を導入する目標が達成できるか、を検討します。
- ・ 介助犬と生活する住環境を整えたり、介助犬の生活費や医療費を負担することも、ユーザーの責任です。
- ・ また、介助犬だけでは不自由が解決しない場合も多くあるため、協力してくれる家族やヘルパー等の社会資源の調整も必要です。
- ・ 面談では、こちらも介助犬について聞きたいこと、知りたいことは遠慮せずにどんどん質問してください。しっかりと答えてくれるかどうかも大切です。

⑤ 自治体（都道府県）に連絡をしましょう

- ・ 介助犬事業は各都道府県に窓口があり、補助犬担当者が配置されています。（①参照）
- ・ 補助犬事業に様々なサービスを行っている自治体もあれば、介助犬事業はまだない・・・という自治体もあります。介助犬の助成金や補助金もさまざまです。
- ・ 住民票がある自治体の補助犬担当者に「介助犬を導入する予定」と連絡します（まず電話で確認するのが良いでしょう）介助犬の助成金等の申請時期も、自治体によって違うので、確認して申請してください。※5
- ・ 申請が通るには、訓練施設と自治体がユーザーとして適正だ、と認める必要があります。
- ・ こういった手続きも、訓練施設に教えてもらいながら進めますので、心配はいりません。

※5：岡山県：助成金は補助犬3種で年間1頭 導入予定年度の4・5月に申請 飼育補助金がある市町村もあり（岡山市は月に6000円）

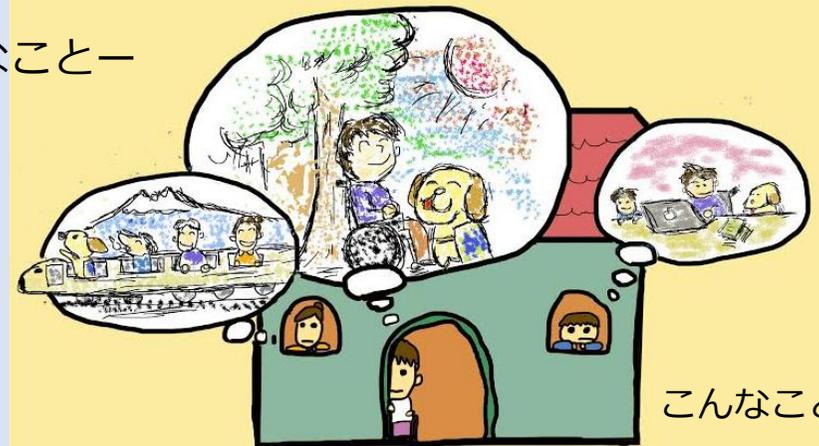
：広島県：介助犬用に年間1頭分の助成金あり 通年申請可能（年度を越しても可）ほかに介助犬の医療費補助もあり

鳥取県：介助犬事業は現在なし。希望者が出た時点で事業化予定

⑥ 待っている間にできることは？

- ・ 申し込みをしてから、候補犬が決まり、合同訓練に入るまでの間、ただ待つだけではなく、必要な準備を進めていくことになります。訓練犬も、まだ見ぬユーザー候補のためにがんばっています。
- ・ 家はそのまま介助犬を迎えることができますか？介助犬で解決できない問題はありますか？職場には知らせていますか？かかりつけの病院はどうですか？訓練施設からの課題はクリアできそうですか？
- ・・・・など、考えたり、とりかかったりすることは、意外とたくさんあります。介助犬ユーザーになったらしたいこと、行きたいところ、イメージを膨らませ、訓練施設と連絡を取りながら、受け入れ準備を進めていきましょう。

あんなことー



こんなことー

⑦ いよいよ合同訓練

- ・ 訓練所では、何頭かの訓練犬の中からユーザー候補に合う犬を探します。「この子！」という犬が見つければ、マッチングを行い相性をみます。そして、候補犬となり、ユーザー候補に個別に必要な訓練をします。
- ・ その後、合同訓練に入ります。合同訓練は訓練所と自宅で合計40日以上行うことが、法律で決められています。
- ・ 訓練所で動作を合わせながら、徐々に24時間一緒に動くことに慣れていきます。座学もあります。英語で指示を出す訓練、犬の生態学、法律など、補助犬ユーザーとして知っておかなければいけないことを学びます。交通機関やお店などを利用するパブリック訓練も開始されます。
- ・ 自宅での合同訓練は、これらの訓練を実際の自分の生活エリア、生活リズムで応用できるようにする、訓練の総仕上げです。ここをもう少し・・・という部分を調整しながら進めます。
- ・ 職場や獣医、自分のかかりつけ病院、よく利用するお店や自治体などへ訓練犬とともに顔見せし、介助犬と一緒に利用できるように調整します。介助犬が人間社会で共生できるように、まずは、出だしが肝心です。

⑧ 最終関門 認定審査！

- ・ 合同訓練が終了したら、最終関門の認定審査を受けます。この審査に合格したら、晴れて「介助犬とユーザー」になります。
- ・ 認定審査は法律で認められた全国7か所の「指定法人」で行われます。岡山以西には指定法人はありません。出張審査は行われていないので、候補犬と一緒に審査会場まで出向いていきます。
- ・ 審査に合格したら、「認定証」が交付されます。この認定証が装着されたケープが介助犬のユニフォームです。ケープには所属の訓練施設が明記され、どの訓練施設の〇〇だ・・・と一目で分かるようになっています。ケープを羽織り車いすの横をさっそうと歩く介助犬は、とても凛々しくほれほれします！



日本介助犬協会のケープと認定証
介助犬訓練法に由来してスウェーデン国旗
のカラーリングです。

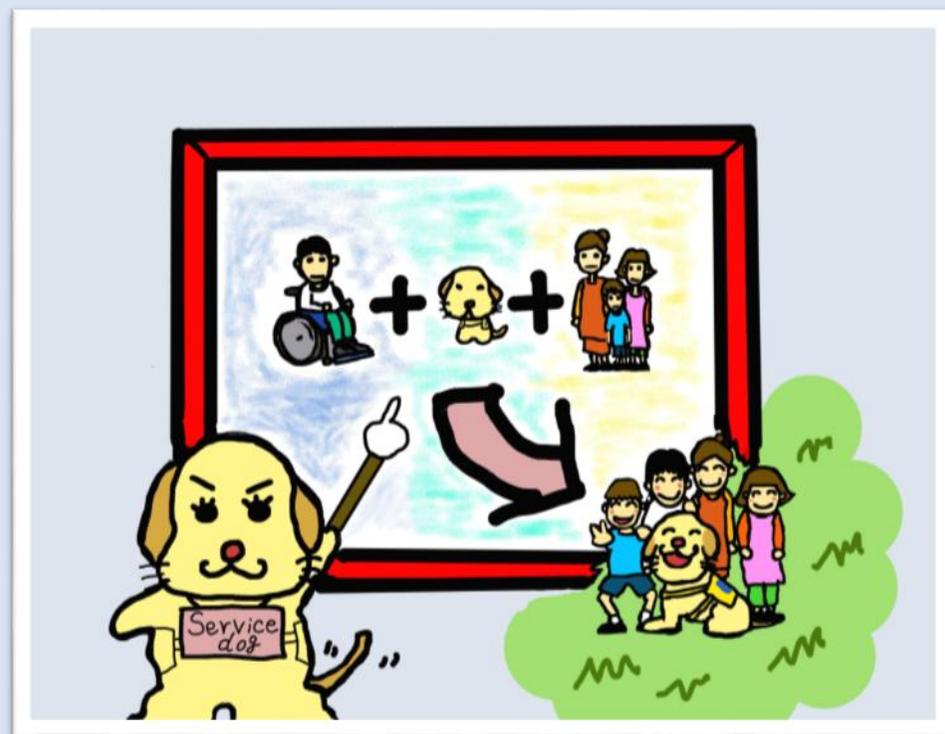
⑨ ここからがスタート！

・ 介助犬ユーザーとなったら、定期的に訓練施設のアフターフォローが入ります。最初の一年はこまめに、徐々に間隔が伸びていきます。

・ 介助犬との生活の疑問や、補助具の具合、困ったことなどはやむやみにせず、積極的に解決するようにしましょう。調子の悪い車いすに乗り続けると、車いすも傷み、乗っている本人も痛むのと同じです。ましてや介助犬は心を持った生き物です。

・ 介助犬は基本的に、365日24時間ユーザーのそばにいるように訓練されていますし、それが何よりの彼らの安心でもあります。「今日は遊びに行くから置いて行こう」「パチンコする間、車の中で待たせておこう」などということがたびたびあると、犬は不安になり、信頼関係に影響が出ます。

母親が子供と出かけるとき、子供に必要な荷物を詰めて、一緒に行くことができるような場所を選びます。それと同様に、いつも一緒に行動するのが基本です。



介助犬方程式

自分 + 介助犬 + 家族
社会資源



自立と社会参加

4. ユーザーさんをご紹介します

H29年現在、日本には70人の介助犬ユーザーがいます。

みなさん病気やケガで肢体不自由になり、いろいろな思いを抱えて来られました。

だからと言って

「人生引退するにはまだ早い！」
・・・と、介助犬と一緒に社会復帰へと歩んでいる方々です。

そんなユーザーさんを、今回は3人をご紹介します。

バリアフリー推進賞受賞
です！



おさいふ
どうぞ！



ごそごそ・・・



お水
ください！



ユーザーのご家族代表です。

平野克美さんは、在宅で介助犬とともにご主人の介護をしながら、介助犬の啓蒙活動など全国を飛び回っておられます！ 念願だった、福祉スペースでのお仕事も始めました！

- 1 **病名と障害レベル：** ご主人が頸髄損傷C5
- 2 **受傷歴：** 平成21年受傷
- 3 **介助犬ユーザー歴：** 5年
- 4 **介助犬を知ったきっかけ：** 国際福祉機器展でユーザーさんと日本介助犬協会に声をかけられた
- 5 **介助犬が欲しいと思ってから、導入するまでの期間：** 約8か月

6 介助犬が来てから変わったこと

- ・ 必要な時はタフィーが呼びに来てくれるので、ご主人につきっきりということがなくなった
- ・ 半日くらいは仕事に出られるようになった
- ・ タフィーがカバンから財布を出してくれるので、ご主人が一人で買い物に行けるようになった
- ・ 日帰りで飛行機にも一人で乗れるようになった
- ・ 講演活動に活発になり、応援してくれる人が増え、人脈が広がった
- ・ ご主人が体調を崩すことがなくなった

7 これからしたいこと：

- ・ ご夫婦： 介助犬の情報提供の場を増やしたり、啓蒙活動を夫婦で続けていきたい

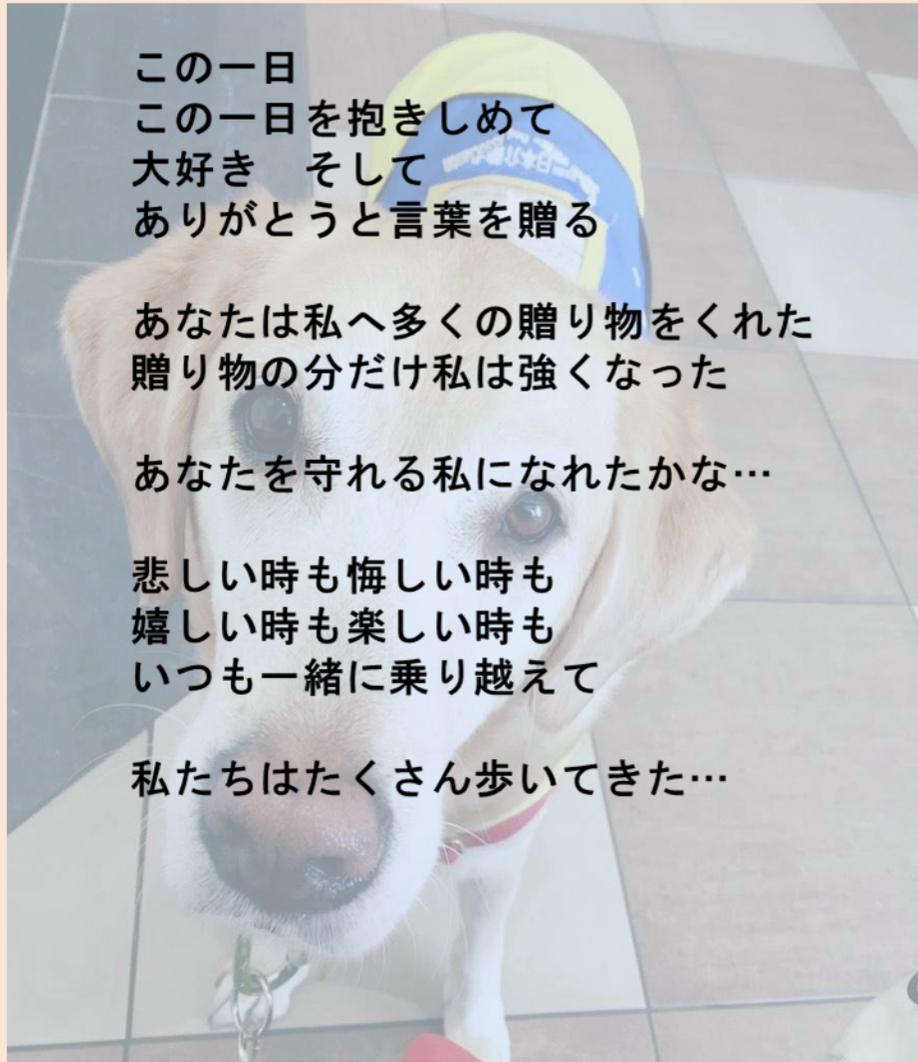


障害を持つご家族へ介護福祉士としてかかわりたいです。
介助犬の持つ力を実感したので、動物介在療法などにもかかわりたいです！



公共交通機関で一人で旅行に行きたいです！
それと車の運転がしたいです！

おともするワン



この一日
この一日を抱きしめて
大好き そして
ありがとうと言葉を贈る

あなたは私へ多くの贈り物をくれた
贈り物の分だけ私は強くなった

あなたを守れる私になれたかな…

悲しい時も悔しい時も
嬉しい時も楽しい時も
いつも一緒に乗り越えて

私たちはたくさん歩いてきた…

前の詩を介助犬ジョイに贈りました。「自立したい障害者に理解を！」・・・と、ジョイと介助犬の啓蒙活動や旅行をしたり、生け花や創作活動、・・・と大忙しです。

1 病名： 多発性ニューロパチー

2 受傷歴： 10歳の時発病、
現在も進行している

3 介助犬ユーザー歴： 6年

4 介助犬を知ったきっかけ： 一人暮らしの時、何かあったらどうしよう・・・という不安で、なにもかも我慢して過ごしていた。そんな時以前聞いた介助犬のことを思い出し、訓練施設に連絡を取った。

5 介助犬が欲しいと思ってから、導入するまでの期間： 約1年半

6 介助犬が来てから変わったこと：

- ・ いつも人に何かしてもらおう側のため、無理をして笑っていたが、ジョイが来てからは心から笑えるようになった
- ・ 自分が自然体になり、無理せずに人の手を借りることができるようになった
- ・ 町中で車いすの自分が邪魔なのではないか、と怖くて引きこもりがちだった。ジョイが来てからは外出がとても楽しく、遠出もするようになった

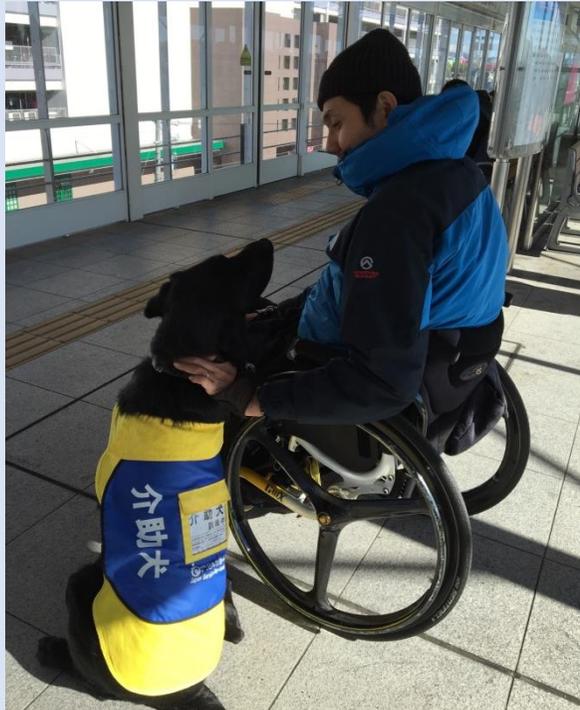
7 介助犬との一番楽しい時間は？

- ・ いつもは車いすなので、ジョイが甘えるときも膝に顎を載せる程度。それが朝のベッドからの起き上がりの介助の時は、ぎゅっと抱きつけるのでとっても幸せ！

8 これからしたいこと

- ・ 障害を持っていても、その人らしく生き生きと生きていくことができる、ということを当事者の立場からお手伝いしたい





- 1 病名： 頸髄損傷C6B3
- 2 受傷歴： 8年
- 3 介助犬ユーザー歴： 半年
- 4 介助犬を知ったきっかけ： 通院先の病院で、他のユーザーが介助犬を連れているのを見たのがきっかけだった
- 5 介助犬が欲しいと思ってから、導入するまでの期間： 1年数か月（認定はそれから半年後）
- 6 介助犬が来てから変わったこと： 毎日がさらにハッピーになった！
- 7 介助犬との一番楽しい時間は？
 - ・ 寝ている時以外、全部楽しい！（ダイキチ君の特技はいつでもどこでもすぐに寝られること！）
- 8 これからしたいこと
 - ・ サーフィンでタンデム

5. 介助犬について良かったことあれこれ

「介助犬が来て良かったこと」を聞いてみました

・家族でも頼むとき気を使っていたが、介助犬がしてくれると、**自分がした気**になります

・起き上がりに時間がかかり、一度起きると無理にでも車いすに座っていたが、短時間でできるようになり、**体調に合わせて体を休ませることが**できるようになりました

・「この子のために元気でいなきゃ！」と**自己管理に気を付ける**ようになりました。散歩などよく動くようになりました

・街中を走っていても、ぶつかられなくなりました

・以前は人の視線が怖かったけれど、介助犬といると**周囲の視線が優しく**なりました

・介助犬と出かけたいために、**運転免許を取得**しました

・家族とケンカしたときの緩衝役になってくれます

・人の手を借りることばかり多かったけれど、**介助犬には自分が世話をすることが必要**です。しかも、喜んでくれます！

・最初は家族も反対していたが、外出も介助犬とできるようになり、**自分も家族もプライベートな時間が持てるよう**になりました

介助犬のことを考える数年間は、体調が悪く、入院していた年もありました。気力も体力もなくなり、人生はこのまま先細りで終わるのではないかと思った時期もあります。

それが、介助犬にめぐり会い、急に人生が末広がりにも明るく感じるようになり、気力が復活してきました！ もう少し体調が安定したら**仕事に復帰したい**です！



6. 困ったことはありますか？

- ・ **介助犬が介助動作ができなくなってしまった**
人間と同じように、犬も使わなければ忘れてしまい、いざと言う時にできなくなってしまいます。**すぐに必要のない介助動作も、維持するよう心がける**ようにします。

- ・ **介助犬が家族の言うことしか聞かなくなった**
介助犬の世話でユーザーができない部分を、家族が干渉しすぎると、世話をしてくれる人の言うことばかりを聞くようになります。あくまで、**世話の主導権はユーザー自身**ということ、周囲のみんなと認識しましょう。

- ・ **最近、仕事中に行儀が悪くなってきた**
かわいいあまりに、甘やかしすぎると、吠えたり、飛びついたり、テーブルの上のものを食べたり、ホテルのベッドに乗ってしまったり。これは大きな問題です。犬は一度でも許すと「やっていいんだな」と思います。**ユーザーや周囲が、やってはいけないことをさせない、誘導しない!**という心構えが大切です。

- ・ **犬にも1頭1頭にキャラクターがあります。**
「私の犬はどんな犬か？」よく観察して、行動が予測できるようになると、犬との生活をより安全で、とても楽しく過ごすことができます。

介助犬のプロに聞きました！

7・介助犬と職場復帰！「心得」教えて！

今までにたくさんのユーザーさんの職場復帰に携わってこられた、介助犬トレーナーさんにお話を伺いました

- ・ **職場の方が「介助犬を知らない」ことが多い**



介助犬を知っていただくよう、職場への説明から始めます！

- ・ **「困ったことは同僚に頼んで、介助犬は連れて来なくてもいい」と言われる**



そもそも、介助犬と職場復帰したいのは、同僚に極力依頼せず、自立した仕事をしたいためです。そのことを、自分できちんとアピールできるようにしましょう！

- ・ **職場に犬嫌いや犬アレルギーの人がいる**



犬嫌いの方は、噛まれたり怖い経験をした人が多いので、その気持ちをくみながら、介助犬は訓練されているので大丈夫と説明しながら関わります。時間とともに平気になることがほとんどです。アレルギーについても、衛生管理に気を付けているので、現在まで、アレルギーが発症したという報告は入っていません。でも、念のために仕事の部屋が変わるといこともありました。

8. よくある質問

Q1：トイレやシャンプーなど、介助犬の世話はどうしますか？

A：可能な限りユーザー本人で世話ができるように、リハスタッフは自助具を工夫します。

トイレも合図でシートに排泄する訓練も行います。できない部分は家族やボランティアに協力してもらうことになります。最低月に一度必要なシャンプーも、家でできなければトリミングなどに依頼します。

Q2： 介助犬はいくらですか？

A：基本的に無償貸与になります。（訓練施設により違う場合もあります）そのため、ユーザーとなった後も、ユーザーとしての行動に問題があり、不適格とみなされた場合は資格がはく奪され、介助犬も訓練施設に返すことになります。

食費・雑費・医療費など飼育費用はユーザーが負担しますが、自治体によっては補助金が出る場合があります。

Q3： 引退したらどうなりますか？

A：介助犬は大体10歳で引退になります。その後は、引退犬ボランティアの家や、子犬の時に育ったパピーホームへ生活の場を移します。

この引退先の選定は、とても厳しい審査で決まりますので、存分に愛されて老後を過ごします。

それ以外にも、引退後もそのままユーザー宅で過ごし、施設などへの同伴はできないものの、家の中で手伝いをしたりしながら過ごすケースもあります。

Q4： 同伴拒否をされたらどうすればいいですか？

A：法律ができて知らない人が多く、お店などでの同伴拒否がいまだにあります。

そのような時の説明の仕方は訓練の段階で教えてもらいます。それでも改善しない場合は、自治体の窓口へ連絡してください。法律に関する事なので、自治体からの指導が入るはずですが。

もし、拒否をされてその対応に腹が立っても、決してその場で声を荒げるようなことは止めましょう。周囲の人にも「補助犬使用者は・・・」と思われることになってしまいます。



自助具を工夫し、なるべくユーザーが世話ができるようにします。

介助犬希望者向けパンフレットのデジタル化に寄せて

日本介助犬使用者の会・会長 木村佳友&介助犬デイジー
(日本補助犬情報センター・副理事長、関西学院大学・非常勤講師)

介助犬との生活は、22年目になりました。初代のシンシア、2頭目のエルモを経て、現在は3頭目のデイジーと生活しています。

私は27歳の時、交通事故で頸髄を損傷し車いすの生活になりました。人生を諦めかけた時期もありましたが、リハビリ訓練を経て在宅勤務で職場復帰も果たしました。しかし、妻との二人暮らしで妻もフルタイムで働いており、日中は一人になるため、落とされたものが拾えず仕事が中断する、車いすから転倒しても助けを呼べないなど、色々と不自由なことがありました。

その頃、日本初の介助犬が育成されていた時で、ある記事をきっかけに、訓練事業者から勧められ、介助犬との生活を始めることになりました。

介助犬に関する情報はほとんどなく、もちろん身体障害者補助犬法は存在していません。介助犬はペットと見なされ、医療従事者との連携も無い状態です。その結果、合同訓練でも様々な苦勞がありましたし、同伴拒否などの問題も山積みでした。今となつては、無謀ともいえる選択でした。

当時、補助犬法やこのパンフレットがあれば、私の苦勞はもっと軽減されていたと思います。

現在、補助犬法により施設への補助犬の同伴が認められていますが、それでも法の認知度が低いことなどから、同伴拒否がなくなっていない。そのため、このパンフレットは、大きな手助けになると思います。

皆さんが納得できる訓練事業者を見つけ、楽しく介助犬との生活を始められるよう願っています。



木村さんご夫婦と
現役の3代目介助犬
デイジー 日本全
国飛び回ります



補助犬法成立のきっ
かけとなった、木村
さんの初代介助犬シ
ンシアの像の前で、
2代目エルモ、3代目
デイジーと

ナースからみなさまへ

介助犬の仕事は大まかに
「日常生活動作で不足した部分を補ってくれる」
「緊急事態に遭遇した時、連絡手段を確保できる」
などがあります。

それだけではありません。
寄り添いあい、守りあい、お互いを思いあう介助犬
という存在は、自分の中の、思いもかけない力を引き
出してくれる可能性があります。

それは、その方の心と体をより健康へと導いてい
く、看護にも共通した不思議な力です。
不思議な力は目に見えませんし、測ることもできま
せん。しかし、信じてうまく活用することができたら
ら、必要とする方にとって、とても大きな支えにな
るでしょう。

私たちは、ひとりでも多くの肢体不自由の方が、
介助犬とともに本来の自分を取り戻し、いきいきと
毎日を送られることを、心から願っています。

吉備高原医療リハビリテーションセンター
介助犬普及推進室 看護師



あなたの「がんばる」を応援します
お気軽にご相談ください
<http://www.kibirihah.johas.go.jp/>
E-mail wanko@kibirihah.johas.go.jp